

第40回日本医学教育学会大会 2008年7月25日-26日

多職種学生合同チーム医療教育プログラム 「ケア・コロキウム」の教育効果 -第2報-



前野貴美¹⁾ 高屋敷明由美¹⁾ 安梅勅江²⁾ 前野哲博¹⁾
長田道夫³⁾ 原 晃¹⁾

1)筑波大学医学群医学教育企画評価室 2)筑波大学看護科学系

3)筑波大学基礎医学系

背景および目的

- 筑波大学では、平成18年度よりチーム医療・多職種連携の重要性について学ぶことを目的として、医学類・看護学類・医療科学類合同のチーム医療教育プログラム「ケアコロキウム」を導入した。
- 本プログラムにおける教育効果を明らかにするために、医療関係各職種の役割の理解度などの定量的なアンケートに加え、自由記載式のアンケート調査を併用した評価を試みた。

ケア・コロキウム

- 目的

チーム医療・多職種連携の重要性を学ぶ

- 対象学生

医学類3年次（105名）：臨床実習前

看護学類4年次（65名）：臨地実習後

医療科学類4年次（34名）：臨床実習後

- 概要

3学類混成7-8人の小グループで、実際のケースをもとに作成されたシナリオについて、ケースの問題点、解決策等について1週間のチュートリアル方式で討論する。

ケアコロキウム

スケジュール(12月第1週)

- 3学類混成の小グループで、8シナリオ(要介護高齢者の地域ケア、ターミナル期のケア等など)より1つを割り当てて学習

- 担当教員
コーディネーター 4名
(医学2/看護学1/医療科学1)

シナリオ作成者 看護学類8名
チューター 28名
(医学1/看護学17/医療科学10)

	月	火	水	木	金
1					
2	オリエンテーション		コアタイム 2		全体発表会
3	コアタイム 1				
4		質問タイム			
5			質問タイム		

*空白は自習・グループ学習
*コアタイムはチューター、質問タイムはシナリオ作成者が担当

グループ討論



方法(1) 定量的質問項目

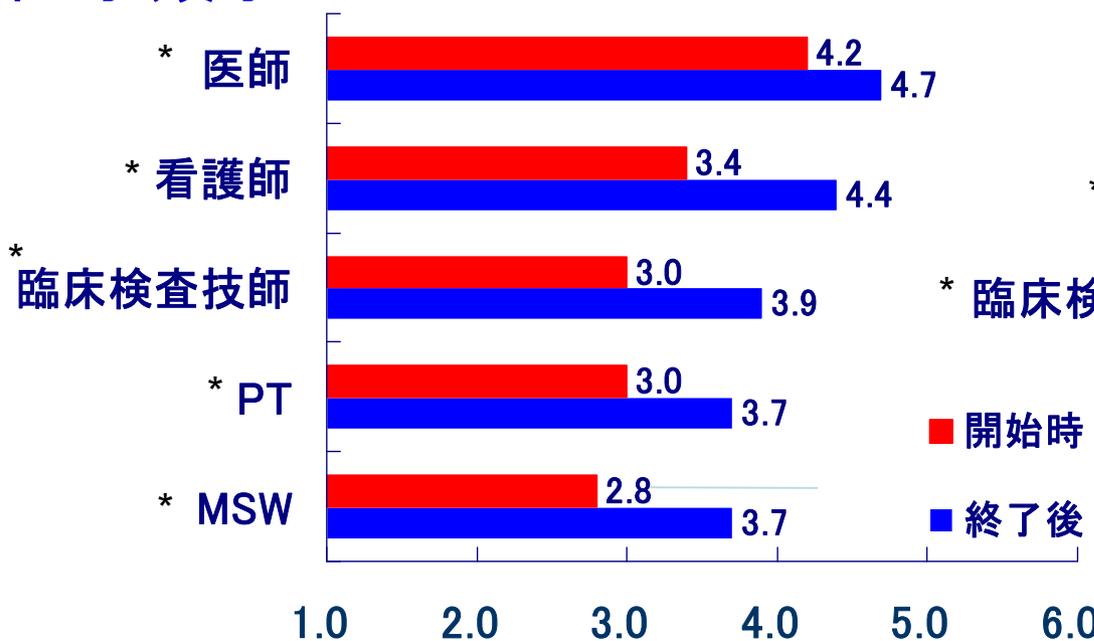
- ケアコロキウム開始時および終了時にアンケート調査を実施
- 測定項目: 医療関係各職種の役割の理解度、職種間連携に関する考えに関する項目
(6段階のLikert Scaleで回答)

方法(2) 自由記載項目

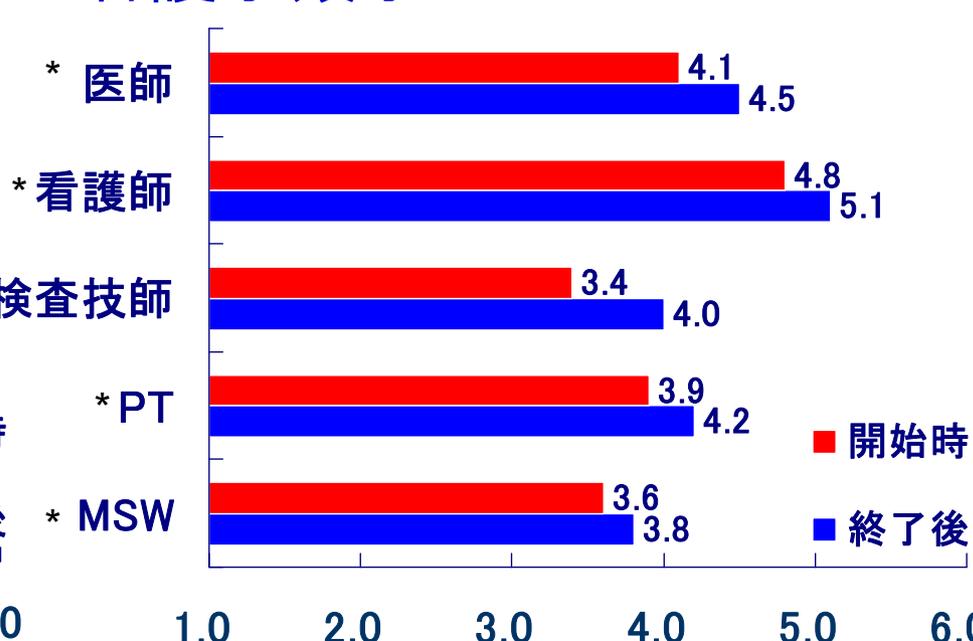
- 全体発表終了時に「ケア・コロキウムを通して得たもの」を自由に記載してもらった。
- 記載項目を抽出し、同類の記載項目を集めてカテゴリー化し、カテゴリー間の関係を図式化した。

結果(1)定量的質問項目 各職種の役割の理解度

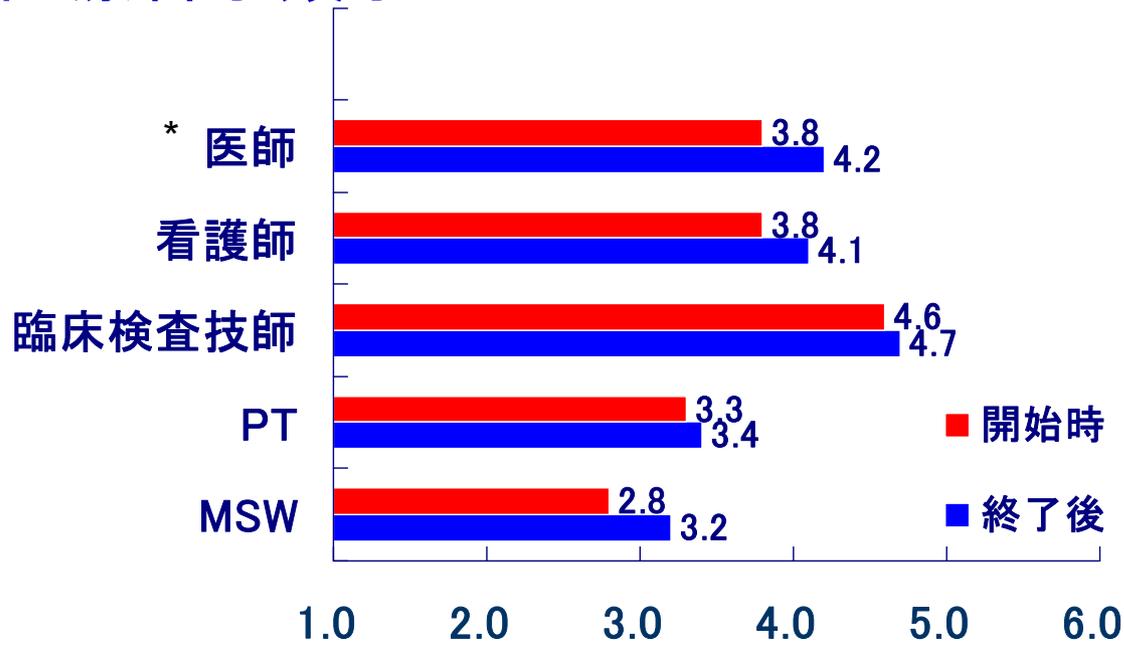
医学類学生 N=89



看護学類学生 N=64



医療科学類学生 N=34



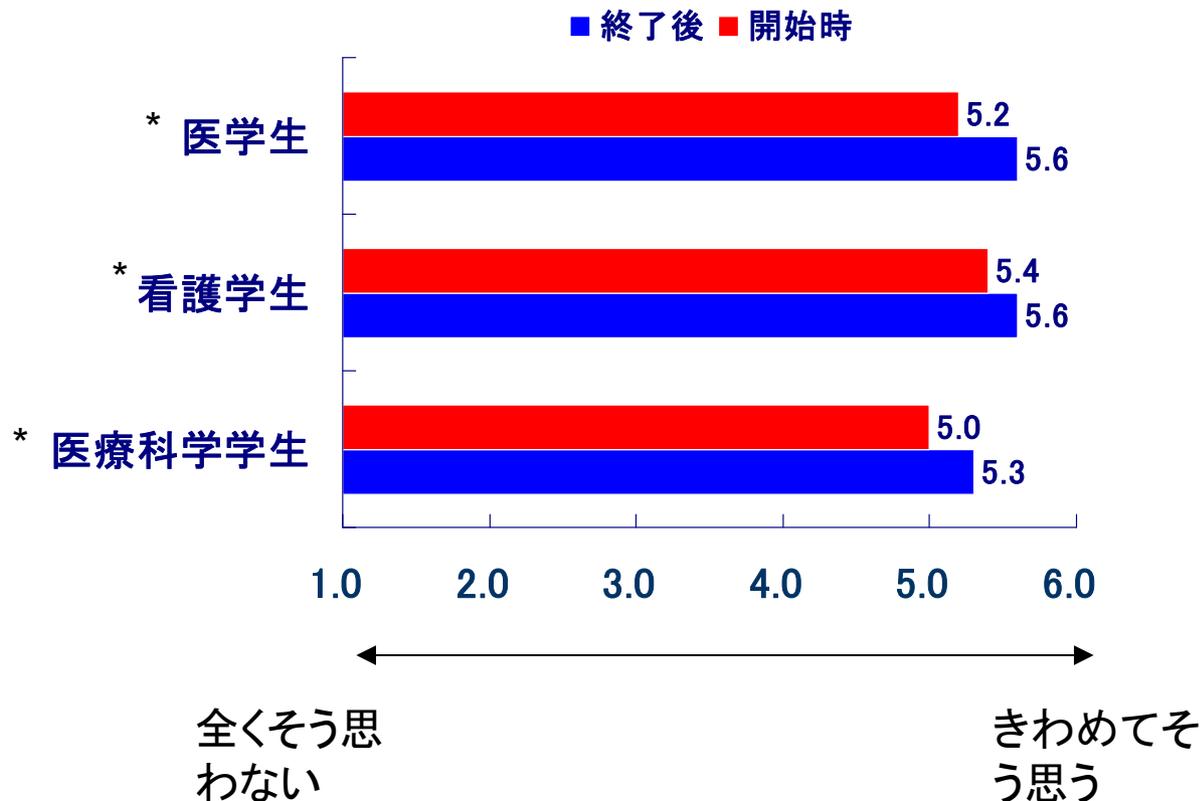
← 全く理解していないと思う

→ きわめて理解していると思う

* p < 0.05 (paired t-test)

結果(1)定量的質問項目 職種間連携に関する考え

職種間連携が患者・家族へのよりよい援助につながると
思う



* $p < 0.05$ (paired t-test)

結果(2) 自由記載項目 ケアコロキウムを通して得たもの

アンケートから356の記述を抽出し、48の中カテゴリーに分類した。同類の中カテゴリーをまとめ、以下の14の大カテゴリーとした。(詳細は資料参照)

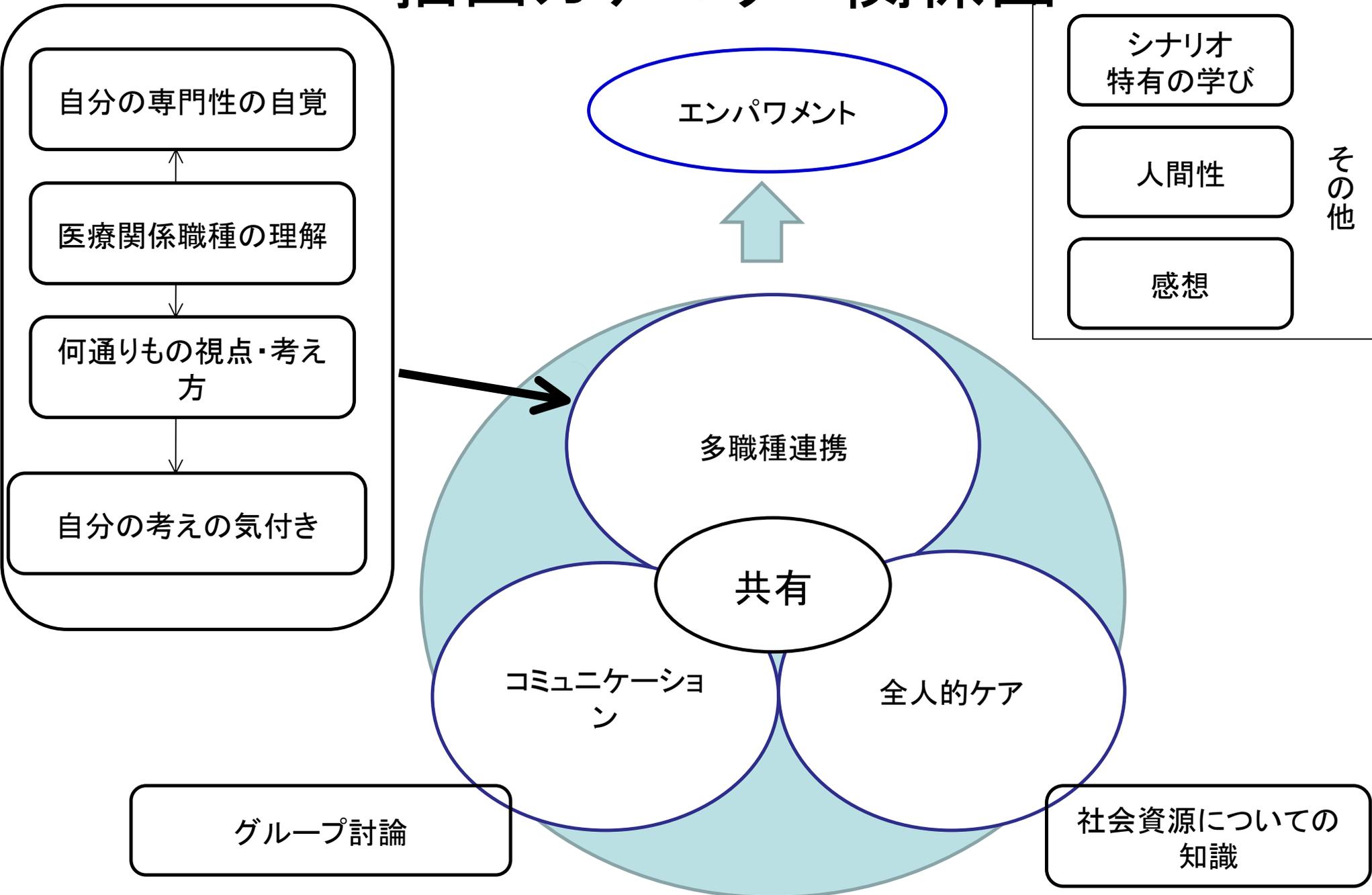
大カテゴリー	記述数	大カテゴリー	記述数
医療関係職種の理解	69	コミュニケーション	12
何通りもの視点・考え方	56	グループ討論	13
自分の考えの気付き	5	共有	17
自分の専門性の自覚	24	エンパワメント	7
多職種連携	85	人間性	4
全人的ケアの必要性	44	シナリオ特有の学び	8
社会資源についての知識	2	一般的な感想	10

回答者：医学96名、看護64名、医療科学35名

ケアコロキウムを通して得たもの 記述例

大カテゴリー	記述例
医療関係職種の理解	それぞれの医療者の立場や役割がわかりました(医療科学)
自分の考えの気付き	自分がこれまで患者を病変としてしか見ていなかったことに改めて気づいた(医学)
自分の専門性の自覚	他職と協力する際、私自身もプロとして自分の専門に詳しくないといけないと痛感した(医学)
多職種連携	自分だけでは患者の最善の利益を追求できない。医療人すべてと連携を取りチームとして患者に接する大切さを学んだ(医学)
全人的ケア	疾患の治療だけでなく、その後が続くケアにもこれからもっと意識が向くようになったと思う(医学)
コミュニケーション	学んできたものが違う相手に自分の考えを伝える難しさを知った(看護)
エンパワメント	ケアとはできないことを手伝うだけでなく、持っている力を伸ばして発揮させるエンパワメントが何より大切だということ(医学)

抽出カテゴリー関係図



考察

- 定量的調査では、他職種の役割、多職種連携に対する理解度が高まっていた。
- 自由記載項目では、ケアコロキウムで学んだこととして、多職種連携、コミュニケーション、全人的ケア、エンパワメント等が挙げられた。
- シナリオを用いた討論で多職種連携・チーム医療に関する深い学びが得られていた。今後、実際の医療現場における教育の実施など、更なる教育効果の向上を図る必要があると考えられた。